

MATSUNAGA HEADLINE NEWS



2016 Vol.29

TAKE FREE

発行元：株式会社 松永建設
 発行人：松永大祐
 〒339-0043 埼玉県さいたま市岩槻区城南五丁目6番6号
 TEL ▶ 048-798-1751 (代)
 TEL ▶ 0120-980-633 (フリーダイヤル)
 FAX ▶ 048-798-0075
 URL ▶ <http://www.matsunaga.gr.jp>

感動創造建設会社

株式会社 松永建設



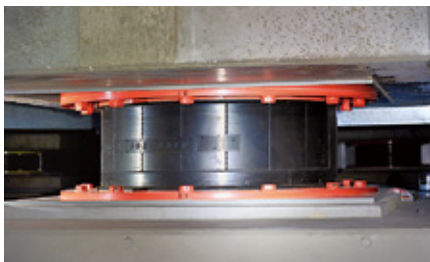
新型ABオービット 堂々完成！

この夏、弊社で初となる免震構造を持つ高収益賃貸マンション『ABオービット』が完成しました。お客様の資産にさらなる価値を付加する免震マンション、ぜひご注目ください。免震に防災用の地下備蓄庫も備えた新技術（特許出願中）の話題も合わせてお伝えします。

東京都北区東十条にこの夏、完成した高収益賃貸マンション「AB オービット」は、弊社初となる免震構造を備えています。AB オービットは収益性から逆算して造り上げる企画型の賃貸物件。そのため、遊休地活用や資産運用として、あるいは節税対策や将来の資産形成の用途として大変ご好評をいただいておりますが、そこにさらに「免震」という新たな価値をご提供することができました。

実際、件のマンション「アリエス東十条」は最寄り駅から徒歩3分という好立地・好環境に加え、「賃貸物件にもかかわらず免震まで備わっている」ことが大いに耳目を集め、あっという間にほぼ満室に。これは特筆すべき事例です。

そしてこのたび、松永建設は満を持して、さらに一歩先を行く免震マンションを開発しました。免震構造に防災用の備蓄庫機能を持たせたもので、「防災力強化型マンション」と言い換えることもできます。現在、この仕組みは特許出願中。具体的な中身をご紹介します。



▲アリエス東十条ではブリヂストン製免震ゴムを採用。地下空間に並んだ免震ゴムが地表から建物を浮かせ、揺れを吸収する

免震装置は地震の揺れを吸収し、やわらげる役割を担います。建物と地面の間に設置され、簡単に言えば、建物は地面の上ではなく「免震装置の上」に載っています。つまり、装置のある地下スペースはいわば建物外。雨風も入り込みやすく、本来ならばデッドスペースとなる空間です。「しかし、そこを逆転の発想で防災用備蓄庫として活用しようというのが、防災力強化型マンション。風雨や湿気が影響しないコンクリート製の箱状のものを免震フロア内に設置し、そこを備蓄庫とするようなイメージです」（営業企画室設計グループ 徳弘正輝主任）

「免震構造を備えていれば、大地震が起きてもまず建物が壊れることはありません。しかし、ライフラインはそうはいきません。水道・電気・ガスは供給ストップ、食料品も入手が困難に。そうしたときに



アリエス東十条
 東京都北区 東十条駅徒歩3分 RC造10階建 1K (27.00㎡) × 16戸 / 2LDK (54.00㎡) × 8戸

人命を守る手立てが備蓄です」（不動産営業部 小島隆義グループリーダー）

今後30年以内にマグニチュード7クラスの大地震が首都圏で発生する確率は

70%とも予測される昨今。お客様が建てようとする賃貸物件の資産価値を何倍にも高める「免震＋防災用備蓄庫」という仕組み、ぜひご注目ください！

東京支店 本格始動！



AB オービットはその収益性の高さが評価され、都内各所でも続々と採用されるお客様が増加中です。東京でのご相談を承るべく、神田駅徒歩3分に支店を構え本格始動！どうぞお気軽にお越しください。

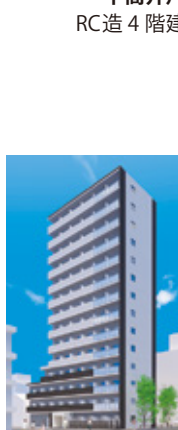
(株)松永建設 東京支店
 東京都千代田区鍛冶町2-4-8 エルペンビルディング8階
 ☎ 03-3526-2660



日本橋浜町 RC造10階建



堀切 RC造12階建



下高井戸 RC造4階建



八王子 RC造14階建

立川 木造2階建



上野ビジネスホテル RC造15階建

都内で続々着工中！

国土交通省 安全管理優良受注者表彰

V3 安全への尽力が評価、国から受賞!



▲表彰状を囲む松永社長と土木事業部員。左より松山敏彦部長、鎌田英樹グループリーダー、松永大祐社長、伊丹健一社員、磨谷整社員、田中吉朗課長、永野長一営業部長

松永建設はこの7月、工事の安全遂行に対する取り組みを評価され、国土交通省 関東地方整備局より「安全管理優良受注者表彰」を受賞いたしました。これは、当局から受注した各種工事を「継続して」「無事故で」完遂させた企業だけが授かることのできる、大変栄誉ある表彰です。今年を対象となる1109件の工事から、弊社は5つの現場においてその安全管理体制が評価され、受賞に至りました。受賞は一昨年、昨年に続き3年連続。安全と健康を尊び、無事故を第一として努力を続けている姿勢が認められたことは、この上ない光栄です。

受賞現場のうち「H26名堤防強化(上)

工事」にスポットを当て、弊社の取り組みをご紹介します。埼玉県羽生市は名(みょう)地区の利根川河川敷において堤防強化を行った当工事、最も気を配ったのは、スカイスポーツ公園に隣接する工事車輛の出入口でした。近隣住民と工事車輛の動線が交わるということは、接触事故などが危惧される箇所ということ。車輛の出入りの際は、必ず関係者が安全を確認しながらゲートを開閉し、車輛への最徐行や注意なども促しました。

「突貫工事にならないよう万全の工程調整を行ったことも、安全に寄与したと自負しています」と語るのは、田中課長。「重機が何台も行き交ったり、作業動線



▲「土木工事は“経験工学”」と田中課長(左)。技術だけでなく、安全への姿勢や意識も経験値として磨谷社員、伊丹社員ら若手に受け継がれる

が錯綜したりすれば、事故は必然的に起こりやすくなります。秩序とゆとりをもって施工をすることは、安全への大切な第一歩です」

入社1年目の伊丹社員にとって印象的だったのは、近隣住民とコミュニケーションを取ることの大切さだったといいます。「地域の防災訓練に参加し、一緒に非常食を囲んだことで、『誰のための安全対策なのか?』をリアルに感じられ、有意義な体験でした。現場は、工事だけで成り立っているのではないことを実感し、感動しました」。そして磨谷社員は「危険予知をすること、予知したら対処をすること——ごく当たり前のことながら、

実行するのが非常に難しいものです。心して取り組み、それが結実したのだと思います」と受賞の喜びを語りました。

営業を担当する鎌田グループリーダーは「公共工事を受注できるかどうかは、過去の工事においてその内容や出来、無事故であったという実績が非常に大きな意味を持ちます。未来につながる受賞にエールを贈ります」。永野営業部長、松山部長も「社内の協力体制、そして協力会社との連携があってこそ実現した受賞。素晴らしいチームプレーの賜物だと自負しています」と声をそろえる今回の受賞。これからまたゆめぬ努力で、安全を突き詰めていくことをお約束します。

国土強靱化へ!

環境にやさしい未来の補修工事「コンクリート乾式吹付工法」が続々着工

今、社会は「スクラップ&ビルド(壊して造る)」から「環境にやさしく、長く」に舵を切り替えつつあります。それは建物ばかりでなく、インフラなどの社会基盤でも同じ。その延命化社会に向けて補修工事の一助として期待されているのが、「コンクリート乾式吹付工法」です。

これはホースの先からポリマーセメントを高速・高圧で吹き付ける、画期的な工法。土木事業部の塙課長と高師主任によれば「鉄筋で型枠を組んで、コンクリートを流し込み養生する…という工程を経る従来の方式より、圧倒的にスピーディ。しかも、ホースを必要箇所まで這わせて施工すればいいだけという、簡便さも特筆すべき点です」。安定した足場が確保しにくい橋脚や、橋のいわゆる裏面など、条件の悪い施工に非常に向いています。インフラの補修や耐震補強など、



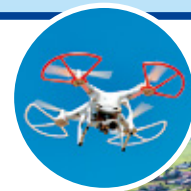
主に土木分野で先んじて活用されることの多い乾式吹付工法、そして建物のひび割れ注入補修工法など、コンクリート建造物全般の劣化対策において、未来を託していただけます。時代は「ロングライフ」。ぜひご注目ください。



▲橋脚の耐震補強工事にて施工前(上)と、乾式吹付工法の施工後(左)。従来の方式が苦手とする悪条件も何のその



ドローン導入! 女子大生も活躍



期待の無人航空機、ドローンの運用をこの3月から開始したお知らせです。空撮機能を持つ機種を導入、特に施工面積が広大なことの多い土木の現場で真価を発揮しています。上空からの俯瞰の光景は、全貌がわかりやすいとお客様に好評です。また自動制御の機能と、簡単に飛ばせる利点を活かし、高所からの定点観測にも大変向いています。進捗状況などを客観的に把握することができ、工事を円滑に進めるために一役買いそうです。写真でドローンを操縦しているのは、この夏の2週間、企業インターンシップ制度を利用し、弊社に研修に来ていた女子大学生。土木の未来を担う存在です。



▲川越・荒川築堤現場の上空50mからの空撮(上)。左は実りあるインターンシップを経験した女子大学生

さいたまトリエンナーレ2016に地元企業として協賛しました

9月24日(土)にオープン、12月11日(日)まで開催されている『さいたまトリエンナーレ2016』。この国際芸術祭に地元企業として弊社も協賛しています。目[Mé]というアーティストによる屋外インスタレーション(空間芸術・体感芸術)に協力し、旧民俗文化センターに作品の基礎を施工しました。興をそぐことのないよう詳細はここでは省きますが、造り上げたのは……不思議な世界!「広大な世界に漂う私たちを感知する」ことができ

る刺激いっぱいの展示になっています。国内外で活動する多様なアーティストの作品が、さいたま市全域を使って展示される「共につくる、参加する芸術祭」トリエンナーレ。ぜひ会場へお運びを。芸術の秋を楽しんでみては?



お客様の
ご紹介

住民念願の「岩槻駅西口」が開設！ 西口活性化で「住みよい街へまた一步」

岩槻駅西口
土地区画整理事業

岩槻駅西口駅前広場・駅前通り線築造工事(H27)



▲予定地のおよそ半分の工事が終わった西口駅前広場。残りの半面にはまだ駅舎用の資材などが置かれているため、駅舎の工事進捗と歩調を合わせながらの施工となる



◀着工前の西口の風景。駅に隣接する絶好の土地ながら、駅西口の未開設や都市施設の未整備により立地が活かされていない状態だった

現場から

「GW 中の突貫工事となり、協力会社の奮闘には大変感謝しています。先を見据えて資材を調達したり、要員を確保したりといった努力が実ったことも何よりでした。利用者の皆さんが感謝の声を直接かけてくださるのは、嬉しいご褒美です」(土木事業部・鍋川原伸之係長)



▲さいたま市都市局 まちづくり推進部 岩槻まちづくり事務所
区画整理第1係 主任 佐久間新様

5月24日は岩槻住民にとって喜ばしい日となりました。東武アーバンパークライン岩槻駅の橋上駅舎の建設に伴い、初めて「西口」がオープン。また東西をつなぐ自由通路も開通したのです。駅をはさんだ反対側へは遠回りを余儀なくされていた住民にとって、ついに念願が叶いました。

この駅舎改修に伴い、西口地区の活性化を図る土地区画整理事業も進めら

れています。弊社が手がけた西口駅前広場と駅前通りの整備もこれに当たります。「施工箇所は駅に近接しており、歩行者や自動車等の通行が多く、安全を確保しながら施工を進める必要がありました。しかし、松永建設さんには施工状況に合わせて適切な保安対策を講じていただいたため事故もなく、工事を進めることができました」と語るのはさいたま市都市局の主任、佐久間

新様。弊社現場担当の鍋川原係長や協力会社の奮闘の甲斐もあり、現在では約半分がロータリーとして機能、駅へ向かう人や送迎車に利用されています。「ありがとう」「便利になって助かるよ」と直接声をかけていただくことも多く、「住民の皆さんの喜びようが伝わってきます」と鍋川原係長も破顔。今後も駅前広場の築造は続きますが、駅舎の完成と歩調を合わせながら、来

年3月の竣工が予定されています。

話題は岩槻の住みよい街づくりにも及び、「駅や自由通路にエレベーター、エスカレーターが設置されたので、東西の駅前広場についてもバリアフリー化を進めることで、駅へのアクセス性をさらに高めていければと考えています」と、佐久間主任は熱い想いを語ってくださいました。

お客様の
ご紹介

「ABホーム」住まいをより価値あるものに

木村様邸

「落ち着いた、住み心地のいい家で大変気に入っています」と開口一番おっしゃってくださった奥様。木村様は弊社の耐震等級3相当の鉄筋コンクリート造・完全注文住宅「ABホーム」で新居をお建てになりました。「高気密・高断熱のおかげなんでしょうね、通りを走る車の音もまったく気になりませんし、以前は焼けるように暑かった3階も適温で、とても快適です」。

玄関を入ると、突き当たりの足元がガラス張りになっていて、裏庭の景色が目飛び込んできます。坪庭を思わせる、なんとも素敵な風情。奥様のお気に入り、リビングルームの一角にすっぽりとはめ込むように設えられた和空間です。2面の障子を閉め切れば、まるで独立した和室のように早変わり。「頻繁に来客があるので、これはすごく助かります」と奥様。吊り戸棚の下もまた玄関ホールから続くガラス張りになっていて、ここでも裏庭が。板の間に調和する心憎い演出が光ります。柱がないのにこの空間が実現し

ているのは、やはり AB ホームが堅牢な RC 造だからでしょう。

リビングには小さいながらも気の利いた吹き抜けがあり、実際の空間以上の開放感。側面に設けられたはめ殺し窓から明るい光が注ぎます。また無垢材の風合いが美しい下がり天井からは、間接照明の柔らかな光もこぼれる仕組み。キッチンやリビングの家具などもすべて無垢材の造り付けで統一され、その美しさにはほれぼれするほかありません。和のやさしさと清らかさがモダンに溶け合いながら、素敵な風情を醸し出す木村様の新居でした。



現場から

「設計段階での建造物としての美しさを、いかに“住みよい”として使い勝手のいいものに落とし込んでいくか。そこが実際の施工において腕の見せ所となります。無垢材も扱いが難しく苦労しましたが、完成したときの美しさはやはり格別。学ぶところの多い施工でした」(建築事業部・山田健斗所長)



▲無垢材で統一された美しい内装。ご主人はダイニング側からこの和空間を眺めるのが大好きなのだとか



▲ダイニングに面した表庭は庭師の力作。「茶の湯と和のある暮らし」を取り上げる雑誌『なごみ』にも掲載された



▲ABホームでは外装タイル張りは標準仕様。本物の風格が光る

岩槻まつり 盛夏の熱狂！ 松永グループサマーフェス

去る8月21日（日）、今年も『人形のまち 岩槻まつり』において松永建設グループ・サマーフェスティバルを開催しました！ 33度を記録する猛暑の中、社員全員でお客様をお迎えし、おもてなしいたしましたが、たっぷりとお楽しみいただけましたでしょうか。当日は古川俊治参議院議員、清水勇人さいたま市長、桶本大輔さいたま市議会議長もお越しくださり、光栄なことにご挨拶を頂戴しました。

松永社長率いる「マツナガオヤジバンド」や、グループ会社のうらら岩槻職員による黒田節演舞など、お馴染みの面々が場を盛り上げたかと思うと、弊社のお客様である曙ブレーキ岩槻製造(株)の社員の方々が構成された「ヨシ



▲古川俊治参議院議員(左)と清水勇人さいたま市長(中)、桶本大輔さいたま市議会議長(右)

ダバンド」様も二度目のご出演。アマチュアバンドの域を越えた演奏を披露してくださいました。また、演歌歌手の中川京美様のステージでは夏の空に美声が響き渡り、大喝采。「感動創造建設会社」の面目躍如たる一日になりました。ご来場くださった皆様、誠にありがとうございました。



▲マツナガオヤジバンド



▲ヨシダバンド様



▲中川京美様



▲「いらっしゃい、美味しいよ」



▲うらら岩槻による演舞

0.2tから出荷OK! 岩槻に合材プラント誕生



この度弊社で合材サイロを竣工、9月1日より「丸忠合材センター」にてアスファルト合材の出荷を始めました。アスファルトプラントの空白エリアだった岩槻に、ようやく利用していただきやすい拠点が誕生しました。もちろん従来通り、各種ガラの受け入れも承っていますので、「廃棄」から「舗装復旧」までの一連の流れが、ワンストップサービス+時間短縮で実現！

- お客様に利便性をご提供いたします。
- ◆再生密粒が最少 0.2t から出荷可能 (0.1t 単位でご購入いただけます)。
- ◆施工性に優れたならしやすい合材。
- ◆運搬車の荷台に付着防止剤を散布サービス、簡便に合材を積み込みます。どうぞお役立てください！

丸忠合材センター
☎ 048-720-8339

月曜～土曜 8:00～17:00 (日曜休業)

社長の男気コラム

特別版：プロレーサーの青木拓磨氏をゲストにお迎えして「生きる力」を今度は人に贈る番

今回は『男気コラム』特別版。私が師と仰ぐプロ・レーシングドライバーの青木拓磨氏にご登場いただきました。どうぞ対談をお楽しみください。

松永：8月のアジアクロスカントリーラリー、悲願の総合優勝を逃したのは残念でしたがお疲れさまでした。拓磨さんはもともと2輪の世界で活躍していましたが、事故で脊髄を損傷し、車いす生活を余儀なくされたにもかかわらず今度は4輪のレーサーとして不死鳥のように蘇った方。そのバイタリティーや闘争心、本当に尊敬しています。

青木：ありがとうございます。操作をすべて手で行える車に乗ってまで僕がレースをしているのは、無論「好きだから」もあるのですが、モータースポーツは唯一、健常者と障がい者の垣根がない競技だからなんです。下半身不随になって今年で19年になりますが、本当に車には救われました。車の存在があったからこそ社会復帰もでき、生きる気力を得たといっても過言ではありません。でも、それは僕が日本という恵まれた環境にいたから。今度は僕が似た境遇の人を手助けする側に回りたいと思い、東南アジアに車いすを寄贈する活動も始めました。

松永：5月にスリランカに70台、今回のラリーの最中にカンボジアに20台

でした。すごく感謝されたでしょう。

青木：日本には今、車で言うところの新古車のような車いすがかなりの台数あるんです。それを知り、青森にある福祉用品販売会社の東洋シルバーサービスにご好意で譲っていただき、寄贈を実現させることができました。

松永：手動運転レースの講習（ハンドドライブ・レーシングスクール＝HDRS）も各地で精力的に開催されていますね。やはり「移動の制限から解放される喜び」を、一人でも多くの障がいを持つ方に知ってもらおうと？

青木：それはもちろんあります。ただ、もう一つの理由もあるんです。僕は運転をする万人が「車を扱う者の義務」として、車の性能と限界を知るべきだと考えています。どう運転すれば安全で、どうなると危険か。それは実体験からしか得られないし、僕のような人間が発信するからこそ真実味もあると思っています。健常者、障がい者を問わず多くの方に参加してほしいですね。

松永：しかし、拓磨さんの行動力は凄い！「いつカル・マン24時間耐久に出る」という夢を堂々と掲げてレースに勤しみ、その傍ら、福祉というもう一つの夢もどんどん実現させています。SEV（コラム参照）を通じて拓磨

さんとは知り合ったわけですが、この素晴らしい出会いに感謝しています。

青木：いやいや、松永社長だって尊敬に値します。多忙極まりない社長業とレースを両立させるなど、半端でない情熱をお持ちです。そういう社長の背中を見ているからこそ、社員の皆さんも一丸となり、同じ目標に向かって突き進めるのでしょうか。

松永：この秋冬はル・マン24hレースのアジア予選的な位置付けのアジアン・ル・マンのシリーズ参戦ですね。12月2～4日は富士スピードウェイでの日本戦。期待しています。



◀左より SEV 東京ショールームの荒田裕介氏、製造販売元(株)ダブリュ・エフ・エヌ 専務取締役の森田善雄氏、弊社社長、SEV サポートर्स代表の松本孝之氏

SEV クリーンシステムを本社屋に導入！

SEV とは、天然鉱石と数十種類の金属の組み合わせでできていて電子を放出、装着したモノや人を「活性化」する特許技術、及びその商品群です。なんと、人体や動植物の細胞レベルから車、産業機器、はたまた住環境まで万能に効果があり、体やモノ本来の「100%の力」を引き出す驚異のアイテムなのです。アスリートの健康アクセサリやカー用品な

どで話題になっているので、ご存知の方もいるかもしれません。SEV の効力に惚れ込んだ社長が、「より良い労働環境を社員に贈りたい」「心身共に健康に働いてほしい」とこの度、水道や空調機器などの社屋内外にクリーンシステムを設置しました。「疲れが溜まらなくなった」「身体が快調！」などの声が続々上がっています。



青木：障がいを抱えて気落ちしている人に、僕の奮闘する姿を見ていただければ。そしてぜひ嫉妬してほしい。何くそといきり立ってもらうのが願いです。